

## 令和7年度 第3回 平塚市博物館協議会会議録

■ 開催日時 令和8年3月24日（火） 午後2時～4時10分

■ 開催場所 平塚市博物館 特別研究室

### ■ 会議出席者（敬称略）

会 長 小倉 俊宏

副会長 藤吉 敬子

委 員 金子 淳、広谷 浩子、山田 美保、大田 幹司

事務局 石川社会教育部長、浜野博物館長、川端館長代理（学芸担当長）、坂田館長代理（管理担当長）、新宮主任（学芸担当）、濱田主管（管理担当）

■ 傍聴者 0名

### ■ 会議の概要

1 開 会 社会教育部長挨拶

2 議 事

（1） 報告事項等について

- ・ 令和7年度秋期特別展について
- ・ 第25回博物館文化祭について

（2） 令和8年度予定について

- ・ 令和8年度当初予算について
- ・ 令和8年度事業計画について

（3） 協議事項

- ・ ワーキンググループ活動のあり方について

（4） その他

- ・ 劣化度等調査業務委託について
- ・ 開館50周年記念事業について
- ・ 事務連絡等

3 閉 会

### ■ 議事及び質疑

議事（1）報告事項等について

◆令和7年度秋期特別展について事務局から説明資料により説明。

委 員 展示解説ボランティアをしているが、来館者の多さに驚いた。はやりの漫画本「瑠璃の宝石」が、おそらくこの特別展の好評の背景にもあると考える。主人公の女子高校生が水晶捕りに山に入るが捕れず、山中で出会った地質鉱物学専攻の女子大学院生に鉱物についていろいろ教えてもらうという筋だ。若い女性が多いのはなぜかというのが展示解説ボランティア共通

の疑問で、考えてみるとこの漫画のようだ。この漫画が深掘りするきっかけになり、ただ光る宝石が好きだったが違う世界に引き込まれていったという女性が、私が話しただけでも4人いて、だいたい30代だった。この作品は2019年から漫画化され2025年にはテレビアニメでも放映され、国立科学博物館ではこの漫画の展示をしていてかなり知られていると思う。作家は、大学で鉱物化学を専攻し高校で理科の教師を経験している人だ。特別展好評の要因に、こうしたことも背景にあるかと思った。

委員 私も鉱物ブームを肌で感じた。アンケートを見るとこの傾向がよくみてとれると思う。博物館のアンケート結果を見る時にいつも悩むが、どうしてもバイアスがかかってしまうということ。アンケートは厳密にやるのなら全員に渡して満遍なく回答してもらおうのが、やり方としてはあると思うが、置いてあるアンケートを取ってもらいテーブルで書いて交換するという作業が入ると、関心があるとか、どうしても言いたいとか、伝えたい人が好んでアンケートを書くというバイアスがかかってしまう。すると、年齢構成、男女比、どこから来たかが、もしかすると実際の母集団とは違った結果になってしまうという気がしている。例えば今回は19歳以下が多かった、市内も市外も47人と39人だが、実際に見た感じとは無関係で書いてくれた人とは違いがあるのか。

事務局 市内市外に関しては見た目ではわからないが、話しかけられたり聞いたりしている中では、市内の方が多いと思う。男女比と年齢構成は、アンケートでは女性の方が多く出ているが、ほぼイーブンと思う。

委員 だいたい来館する方は50代60代の比較的中高年が多いが、それに比べるとアンケートは若年層が多いという感覚がある。ただ、19歳以下がここまで多かったかというのは少し疑問だ。どこから情報を仕入れたかわからないが県外の方も多かった。

委員 もしかするとアニメ聖地巡礼で、ノートにいろいろ書き残したい若い人が聖地巡礼の一環として書き残すことがあるとすると、19歳以下が母集団よりは多くなる可能性があるかなというのがあったが。何が言いたいかというと、定量的調査か定性的調査かというか、パーセントで量として見るのか、中身として質として見るのかというときに、私自身はこういうアンケートは定性評価の一環としてやった方がよいのではないかと思う。どういう感想があったとか、それによってどういうことがわかったとか、そこからどういうことを知りたいと思った、というのは書いてもらわないとわからないと思う。

事務局 ちなみに市外の方は地域が絞れていて、秦野と伊勢原と厚木が圧倒的に多い。

委員 丹沢地域だ。

委員 図録を紹介するとほぼ100%買ってもらえた。展示コーナーの作りがすごく良かった。入室しすぐに丹沢のなりたちを見せて、そのあと化石、岩石、鉱物とあって、説明する方も説明しやすく、見るのにも良かったのではないかと思う。

委員 学校に貼ってあるポスターを見て来たというのは、とてもうれしく思った。展示の内容を紹介してくれる学校もあればポスターを貼っているだけの学校もあり、様々な実情があると推察するが、貼ってあるものを見て興味をもってくれる人を大切にしたいと思う。

◆第25回博物館文化祭について事務局から説明資料により説明。

委員 民俗探訪会の「お魚屋さんの調査」は面白かった。これをきっかけに近くの魚屋さんに行って、博物館で見ましたよというところから会話が始まった。おじいさんの代からやっている魚屋さんのようだ。

委員 展示を見た。「現在進行形のものも調査の対象とわかった」とアンケートに書いたのは私だ。古いものを調べている印象が強いので、現代的なテーマが示されるとワーキンググループへの参加意欲を高めるきっかけになると思った。

委員 お魚屋さんの話を私もとても面白く見た。寄贈品コーナーで手拭いやマッチの展示があるが、私の家も商売をやっていた当時の手拭いがあり、館長から展示するから持ってきてと言われて寄贈した。商都平塚と言われてきたが、商都の商が壊滅状態だと展示を見て改めて感じた。私は平塚本宿だが、本宿も商店が昔はたくさんあった。仲間も何人か展示を見に来て、昔の話をした。魚屋さんも昔はあちこちにあったと。あと数年したらそれも無くなってしまおうと思う。平塚の商都の痕跡を残しておくのは大事なことだと思う。ああいう展示、現在進行形の調査も必要だと思った。活動発表会は楽しみにしていたが大雪警報が出て中止となり、残念だった。昨年の発表会には多くの人がいたが、あの雪では来れなかったと思う。人数の少なさはその影響だと考える。ワーキンググループの方々は大変だが私も楽しみにしているので、報告について YouTube に載せていただきたいと思う。来年もワーキンググループの活動報告会を楽しみにしているので、よろしく願いたい。

委員 お魚屋さんの調査の感想として、現在進行形のものも調査の対象になるのかという意見があったが、会場には他にもそう思っていた人が多かったと思う。思っていたが、アンケートを書くまでには至らない。Twitter や YouTube のコメント機能等を活用することで、アンケートを書くには至らない「心の声」を吸い上げられるのではないかと思う。ツールの一つとして、X や YouTube での方がむしろ意見を集めやすいのではないか。心声を拾ってみるのはどうか。心声の可視化につながると思う。アンケートだけではなく、いろんなツールを使って感想や意見を吸い上げる方が、今後はもしかしたらより簡単になっていくのかなという気がするので検討していただけたらと思う。

事務局 質問掲示板については、いただいた質問に対して会場だけでなく X でも回答をしている。館の公式アカウントでエゴサーチをしたことはないが、X のポストの反応は通知が来るので、意見は承知している。

委員 博物館ではあまり聞かないが、動物園などで使われていると聞く。飼育員がつぶやくとそれ

に対していいね、がつく。それによってお客さんがたくさん来るようになったなど。バズるためという理由では本末転倒だが、ツールのひとつとしては今後あり得る気がするし、どういふ反応があるかを知るにはよい。知らないところで話題になっていたのを後になって知るよりは、問合せ対応を含めてリアルタイムで知っておくとよいのかなという気がする。

事務局 生の声を聴く機会がアンケートくらいしかないのが現状だ。幅広い世代の意見を集めるのには今のアンケートだけでは足りないと感じている。市民が気軽に意見を報告できる方法を確立する必要があるし、博物館側でそれらの意見を受けどう記録していくかという点も検討課題だと思う。

## 議事（2）令和8年度予定について

### ◆令和8年度当初予算について事務局から説明資料により説明。

委員 興味本位で伺うが、焼夷弾のレプリカは制作にどのくらいお金がかかるのか。

事務局 直径 5～7cm くらいのマグネシウム焼夷弾といわれているタイプのを2本作ろうと思っている。予算的には100万円弱になる。

委員 展示用なのか。

事務局 主に学校等への貸し出し用だ。退職女性教員の会の方々に学校で平和学習をしていただく際に今までは実物を貸していたが、劣化の心配がありここで作ることになった。昨年度は30件弱くらいの貸し出し実績が学校以外にもある。レプリカは、重さと重心を実物との誤差5%以内で作ってもらう。

### ◆令和8年度事業計画について事務局から説明資料により説明。

委員 質問だが、情報コーナーの平塚江南高校のSSH 成果発表展示は、年に2回あるのか。

事務局 年度が違うという認識だ。今現在展示しているのは、この春に高校3年生で卒業した生徒の研究発表で、秋に予定しているのは現2年生の研究発表だ。学校からの意向で、秋に成果発表展示したいとのことだが、始めたばかりのこの成果発表展示が軌道に乗ればコンスタントに秋に展示となる。

## 議事（3）協議事項

### ◆博物館ワーキンググループ活動のあり方について事務局から説明資料により説明。

委員 参加しているワーキンググループの一つは、平均年齢が77、78歳で最高齢が90歳。会員のキャリアは10年以上で固定化している。一番の課題は新規会員の獲得だがチラシ配布の結果、入会する希望者2名はどちらも年齢が80歳代だ。もう一つは、人気のある地球科学野外ゼミだが、参加者のほとんどが小中学生とその保護者で若い世代だ。会員数が多いのはよいのだが、野外活動での歩道や岩場見学での移動時に危険を感じることもある。知識レベルの

差があり、まとまりがない気もする。経験に基づくサブグループを作るなどの対応はどうか。

委員 ワーキンググループの運営はどのようになるのか。人数、目指す方向など整理するのは難しいと思うが、学芸員とそこに集まる人々ということなのか。

事務局 ワーキンググループとしては、成果物を目標にしているグループ、グループの活動を通じて博物館活動に協力することを目的にしているグループ、趣味的なサークルとしてのグループの3つくらいにわかれると考える。様々な側面のグループ活動があるが、10年程度で会員の新陳代謝を図るように、引退をとということも考えられるかもしれないが強制はできない。学芸担当としては、グループを受け入れる体制に無理があるのが実情だ。

委員 問題を整理すると、実際にその団体をどうやっていくのかのノウハウの部分と、全体をどう管理するというか方向性を決めていくかというのは、抽象度によって違いがあると思う。教科書的になるが、今の博物館がどういう状況に置かれ、求められていることは何かを議論した方がしやすいかと思う。国際博物館会議で議論されて博物館の定義が変わった。社会的な課題を解決するというのが、博物館の大きな目的になった。それを受けて博物館法も改正された。ただそれは、平塚市博物館が1980年代から地域博物館として先頭を切って活動してきた状況に時代が追いついてきて、他の博物館も同じ課題を抱えるようになったということだ。平塚市博物館の過去の歴史の説明の中にあった、団体が出来ては消える形で時代に対応する柔軟な運営をしていたように思う。地域課題をどう解決するかという観点からあり方を考えていくと、ワーキンググループの再編が必要になると思う。解決すべき課題やテーマ設定の観点から考えることで若い世代の獲得につながるのではないかな。

委員 平塚市博物館が考える地域課題は、どう捉えたらよいか。

事務局 先ほど話題に上がったように商都平塚といわれるほど繁栄していた商店街が衰退してしまっていることとか、空襲と戦災の影響が大きな町なのでワーキンググループの活動で取り上げてきたし、自然環境の保全も重視してきた。

委員 現状で地域課題と向き合っているところもあるが、もっと地域課題を洗い出し、市民が取り組めるようなテーマ設定を考えても良いと思う。

委員 これだけ広い浜はなかなかないと思うので、海底地形とか平塚海岸の海浜植物とか平塚海岸をテーマにすることもできると思う。

委員 若い世代を取り込む方法は何かあるか。

委員 平塚市の博物館として、平塚市の昔を知ってこれからをつくっていく役割を担うことも博物館の意義と思う。博物館で研究した成果を市民や市政に反映させることができるのかという視点をもって再編することも重要だ。主体的に手掛けたことが平塚市をより良くするところにつながる、自分のやることで何か変わるかもしれないという期待度があれば人は参加するし、参加した人に高揚感が出るのではないかな。

委員 資料の整理と研究が学芸員の一番大きな核となる仕事と思う。学芸員一人ではできないこと

をワーキンググループが協力して進めることで成果が上がっていると思うが、ワーキンググループが増えすぎて学芸員の業務に支障が出始めているとも思う。また学芸員が世代交代して若手や中堅になり、ワーキンググループの会員とうまくいっているのだろうかという印象もある。学芸員のビジョンも持っていると思うので、それに合うように改善していくことが大事だと思う。

事務局 担当学芸員は市民に喜んでもらうために頑張っていて、市民からも感謝されている。だから急に会を終わりにするようなことはできない。負担を軽くする方法を考えていこうと話しているが、うまい解決方法が見つからない。

委員 県博のワーキンググループの活動例を言うと、ボランティアと友の会がある。友の会は、博物館全体をサポートするがそれぞれやりたいことを極める。ボランティアは学芸員の仕事を手伝うという形で、それぞれ20～30年やってきているが課題は多い。

委員 結論は出ないが、委員それぞれの立場からの意見が様々出された。これらをもとに博物館でも今後のワーキンググループのあり方を考えていただきたい。また何かあったら協議会に出してほしい。

#### 議事（4）その他

##### ◆劣化度等調査業務委託について事務局から説明資料により説明。

委員 基本的な事実関係の確認になるが、庁内調整は理事者の判断ということで、改修をする必要性・実現性判断の主体はどこにあるのか。

事務局 社会教育部長、資産経営課、教育施設課で議論した結果について理事者に報告し、庁内の方向性を決定していく。

委員 ハードとソフト一括での基本計画という話だが、展示は別でという話があったがどういう関係なのか。

事務局 建物の改修にかかる設計施工と展示の設計や工事は別の契約になる。改修全体の中で概算費用を出す必要があり、展示については作り込み方によって金額がいくらでも変わってくるので、現段階で標準的な平米単価で算出することになると考えている。

##### ◆開館50周年記念事業について事務局から説明資料により説明。

事務局 5月1日に記念式典があり、委員には来賓という形で招待をさせていただく。

##### ◆事務連絡等

- 新年度第1回の協議会は7～8月を予定。式典についても後日、書面で案内をすることになった。閉会後に1階特別展示室で開催中の50周年記念特別展について、学芸員が解説をした。